

2020 年度事業報告書
(2020 年 4 月 1 日～2021 年度 3 月 31 日)

特定非営利活動法人
コミュニティルネッサンス研究所

事業の成果

1 『福山市体育館記録誌』の作成

1) 2020 年度、福山市の委託を受けて上記記録紙の版下原案を作成した。そのために NPO では市役所との打ち合わせ、記録誌の構成、執筆依頼および執筆料の支払い、進行状況の確認、文章の校正などを行った。

この事業は、本会の特色を活かして実施し、市民に貢献できたと考える。この事業実施による成果としては、一つの体育館だけをとってみても、様々な背景のもとに成り立っていることを改めて気づくことができた。この成果は本 NPO が行う事業の中で落としてはならない視点であると考えられる。

なお、作成した『記録誌』の内容概略は以下の通りである。

2) 福山市体育館の歴史的背景を以下のような点から明らかにした。

- ① 体育館建設の背景には、「国防に役立つ若者」を育成する体育観から、「社会教育法」に基づいた「国民が健康で文化的な生活を営む」体育観への変化がある
- ② 体育・スポーツの歴史的変遷を踏まえた体育館の歴史的変遷
- ③ 体育館の立地場所の歴史的背景

洪水により決壊した芦田川の改修工事で生じた廃川地に、紀元 2600 年（1940 年）を記念した運動公園計画（約 30,000 坪に自由運動場、野球場を設け、周囲には椎、楠桜などの植樹）。現在の体育館の地には福山護国神社（1945 年 8 月 8 日の空襲で焼失）。

④ 福山市体育館の構造上の特徴

大屋根構造であり、多様な使用法を考慮した平面計画。その意匠には多くの建築家のデザインが活かされている

⑤ 設計、施行は市役所内の建築部建築課が担う

設計は岡田実氏（大阪市立大学卒、大阪市役所勤務後福山市役所に勤務。）構造設計の計算は日本鋼管株式会社に協力を依頼。

2 会報の紙面に工夫

コロナ禍で当初企画した種々の行事を中止したので、今年度は会報内容や編集に工夫を加えた。読者から寄せられた感想を紙面に活かすなど、会員とともに作る会報への一歩が踏み出すことができた。

3 高齢者がレジリエンスにどうかかわるか

名古屋の「希望の会」より NPO 法人地域の絆の調査希望あり。コロナ禍中により事務局メンバーのみが参加。絆代表の介護施設の運営理念、リタイア後に絆で働く人からの聞き取りをした。従来から高齢者の労働を考えてきたが、労働には「健康維持と他者との繋がりによる労働の喜び」の意味を持つことより明らかになった。

今回の調査によりその人らしい高齢期の生き方、高齢者も含めた地域づくりを考えていく一歩になったと考える。